

「ひとまちアカデミー」のプログラミング教室は、「ITエンジニア」や「プログラマー」として働きたい夢にもつながるよう、お子さんのオリジナリティや自由な想像性の成長を促すスクールです。

これまでのプログラミング教室との違いは、「未来の力へつながる」「可能性を広げる」思考スタイルを育てること。子ども達の未来の選択肢を広げることをも視野に入れ、問題解決能力も培っているところです。

*

今回は、「ひとまちアカデミー」のプログラミング教室へ通っている小学校6年生の男の子の保護者お二人へ、お子さんの様子やスクールへの思いを聞きました。保護者の方はどんな思いをお持ちなのでしょう。率直な思いを語っていただきました。



インタビュアー：お子さんはおいくつですか？また、いつからこちらの教室へ通っていますか？覚えていらっしゃれば、通われるようになったきっかけも教えてください。

Aさん：子どもは小学6年生の男の子です。

地元のフリーペーパー「ライナー」で体験会の掲載を見て参加したのがきっかけですね。ゲームが大好きで、学校の授業でのプログラミングも始めていましたが、ゲームや学校の授業では物足りなくなっていました。

体験会へ参加し、子ども自ら「続けたい。やりたい」とのことで、4月から入会して通っています。

Bさん：子どもは同じく小学6年生の男の子です。

我が家もフリーペーパー「ライナー」の体験会に参加したのがきっかけです。体験会へ2回ほど参加し、通うことを決めました。我が家も4月から通っています。

息子もゲームやパソコンが大好きで、ゲームなどのコマンド入力をするなど「いちから作る」という事を好み、楽しんでいます。
そのため、他のプログラミング教室や学校で多く取り入れられている「スクラッチ」では物足りませんでした。
こちらへ入会してからは、自分のしたいことができるので、我が子は魅力的に感じていると思います。



インタビュアー：お二方とも、教室へ通いたいというお子さん自らの気持ちがあったんですね。「ひとまちアカデミー」のプログラミング教室へ通っているメリットはどんなことだと感じますか？

Aさん：メリットとしては、自分で作り上げる事が多いので、好奇心が育つと感じます。目的を持って取り組むことができるので、意欲につながりますよね。
コロナ禍の中で、自分で意欲的に何かに取り組むという機会が減ったので、与えられたものをただやるだけではなく、自主的に取り組めることがあって良かったと思っています。

Bさん：自分で考え付いたことをやらせてもらえるのが一番のメリットだと思います。したいことを先生に伝えると、そのやり方を教えてくれるのが良いと思います。先生が一斉に支持をし、与えられた課題ではなく、子どもの意思・意欲に伴った「やりたいことをする」というやり方なので、とても良いと思います。



インタビュアー：そうですね。実践していることはとてもむずかしいジャンルのことですが、子どもが意欲的・自主的にやりたいことに取り組むという姿は、本来の子どもらしい姿でもありますよね。

Aさん Bさん：そうですね。本当にそうだと思います。



インタビュアー：お子さんが将来目指しているものや、保護者の方がお子さんに就いて欲しいと思う職業などがあったら教えてください。

Aさん：ゲームクリエイターになりたいと本人は言っていますね。

学校の自由研究でも自分でゲームを作って提出したいと思っているようです。

子どもは、学校で習っていないことをアカデミーで勉強しているということが本人の自信となっているようです。将来的にはクリエイターを夢見ているようです。

さらに知識を深めたいと思っています。

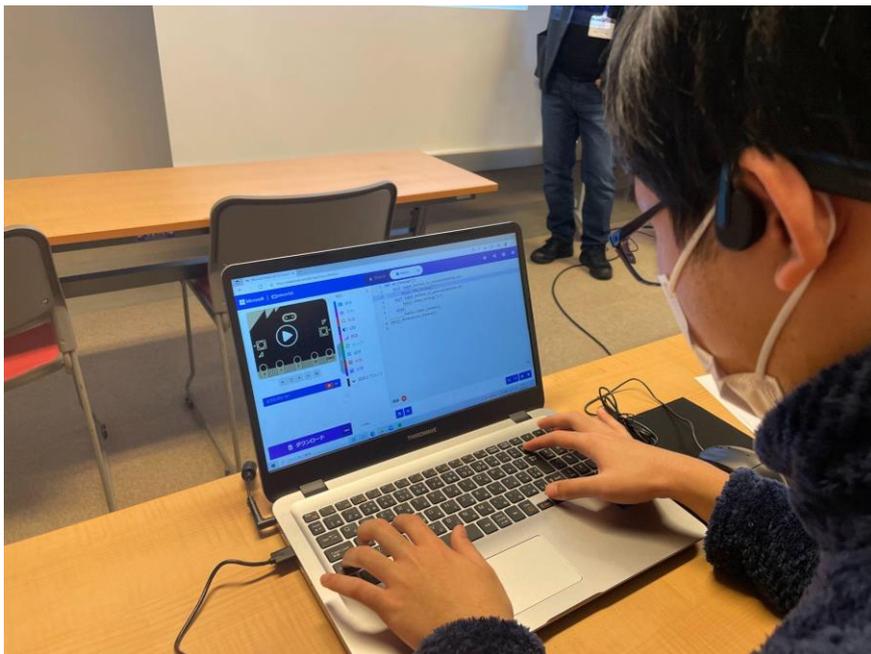
親としては、今後はITが中心の時代になるのではないかと思いますので、将来的にはこのようなことを早い段階で始めて、知識を得ているのは有利なのかと思います。

興味のあることを仕事にしてもらえたらと思っています。

Bさん：まだ本人は具体的には言うてはいませんが、動画の編集やPCを使う仕事に就きたいのだろうと思います。

本人が将来の夢を考えだしたときに、どの仕事の様々な分野にもプログラミングが存在しているので、今習っていることでどの分野でも活かせるし、進みやすくなるのかなと期待しています。

選択肢が広がるのかなと思っています。



インタビュアー：アカデミーに通うことで、未来への視野も広がっているのでしょうかね。

保護者の方から見て、最近の教育について思うこと・期待することや希望があれば教えてください。

例えば、将来の学校の選択肢を広げてほしい、子育ての支援を増やしてほしい、など具体的なことでも構いません。

Aさん：自分の得意な分野を伸ばしていけるよう、教育の仕方にももう少し時代に合わせた変化があってもいいのかなと思います。興味のあることを伸ばせるような授業体形だといいですね。

旭川は、小学校卒業後の進路がとても狭いと感じます。中高一貫校などもないですね。私立中学などがあれば色々な子どもが意欲的になれるのかなと思います。

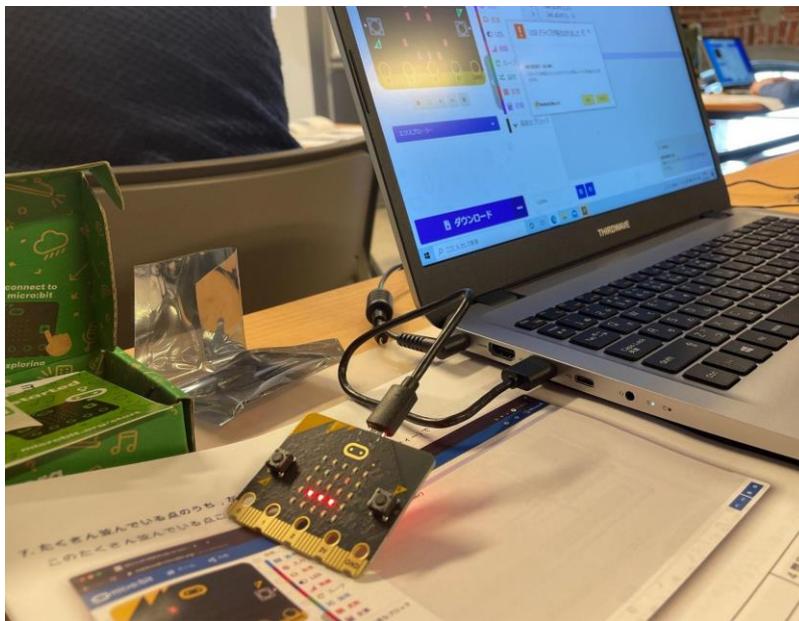
特色がある学校が増えるといいですね。旭川になれば札幌へ行くしかないのかなとも思いますし。

Bさん：高校の選択肢が狭いと感じています。例えばeスポーツのコースなどがもう少し増えてもいいのにと希望します。旭川は選択肢が少ないので、高校進学の頃には札幌へ行こうかなと考えてもいます。

インタビューイ：お子さんに今後学んでほしいと思っていることがあれば教えてください。むずかしければ例えば、こんな大人になって欲しいな、などでも構いません。

Aさん：思いやりを持ち、人への感謝の気持ちを忘れない人であってほしいですね。また、数学や英語はプログラミングに関わる科目であり基礎になるので、頑張してほしいと思っています。

Bさん：自分の好きなことを見つけられるように、色々な挑戦をしてほしいこと、興味を持ったら挑戦してほしいと思っています。自分で考え選択できるひとになってほしいと思います。社会人になると受け身では生きられないので、失敗しても良いので自分で課題を見つけて挑戦してほしいと思っています。



インタビューイ：「ひとまちアカデミー」に対して、意見や要望はありますか？

Aさん：特にありません。本人が好きで通っているので応援したいだけです。

Bさん：特にはないのですが、eスポーツのできる場所で教室を開催してほしいなと思っています。

*

「ひとまちアカデミー」は、プログラミングを通し、子どもが自主的に学びたい気持ちや意欲を引き出す学びであり、子どもも保護者も大変充実し満足していることが伝わってきました。

プログラミング学習は、何のためにするのか、学ぶ過程や未来へつながる目的や選択肢の広がりも考えた学習ができる「ひとまちアカデミー」。体験会は頻繁に開催しています。ぜひお子さんと参加し、一緒に学ぶ喜びを体験してみませんか。

インタビュー：炭本まみ